

# 大牟田市まちづくり基本条例

## 市民検討会 ニュース

# 2号

6班	7班
<b>市民</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●非協力的</li> <li>●何事にもかかわりたくないといった意識がある</li> <li>●他者への依存性がある</li> <li>●地域の負担が大きい</li> <li>●活動する市民の年齢層に偏りがある</li> <li>●市民相互間の説明、会話が不足している</li> <li>●合意形成がなされていない</li> <li>●自己本位の順位付けをする</li> </ul>	<b>市民</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢化による人材不足</li> <li>●意識や価値観に違いがある</li> <li>●危機感がない</li> <li>●自分のことは自分でという考え方がある</li> <li>●自分のことだけで精一杯という考えがある</li> <li>●実際に行動することが難しい</li> </ul>
<b>行政</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●行政施策が縦割り</li> <li>●予算が不足している</li> <li>●情報提供が不足している</li> <li>●コミュニケーションが不足している</li> <li>●公共・公益のくびきが明確でない</li> <li>●行政には様々な制約が多い</li> <li>●上から目線でものを言う</li> <li>●高齢者に対して対応が悪い</li> <li>●市民参加といつつ行政主導の動きが強い</li> </ul>	<b>行政</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●個々の市民の状況を理解しようとしていない</li> <li>●横断的ではなく縦割り</li> <li>●義務的</li> <li>●協働に関する窓口が一本化されていない</li> <li>●協働に対する支援が少ない</li> </ul>
<b>その他</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市民と行政の相互理解、コミュニケーションが不足している</li> <li>●市民と行政との意識、目標設定に開きがある</li> <li>●広報、ホームページが読まれていない</li> <li>●市民と行政双方とも情報が不足している</li> </ul>	<b>その他</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●対話の不足（相互理解の情報共有の場が必要）</li> <li>●多忙で時間がない</li> <li>●協働するメリットが少ない</li> <li>●誰が何に困っているか情報が把握されていない</li> <li>●市民と行政の役割が不明確</li> <li>●市民活動団体登録の明文化及び定義づけが必要</li> <li>●協働の手引きがない</li> <li>●協働の成功事例の共有促進</li> <li>●NPO団体及び活動の評価の必要性</li> <li>●NPO法人の活動内容を広報に掲載してもらいたい</li> </ul>

### まちづくりの現状と問題点を洗い出し！第2回市民検討会開催。



### 事務局からのお知らせ

3月28日（月）開催の第3回市民検討会から本検討会会長の 伊佐 淳（いさ あつし）先生（右写真）にご参加いただきます。

#### ●プロフィール

久留米大学経済学部教授。専門は非営利組織論、社会的企業論、市民参加型地域づくり。久留米市「市民活動を進める条例」の策定委員として参画。地域に根ざしたNPOやコミュニティ・ビジネス、社会的企業などの組織の独自のサービスの供給による個性豊かな自立した地域づくりのため、多数の非営利団体に役員などとして参画し活動を行っている。



平成26年3月3日（月）に市役所において第2回まちづくり基本条例市民検討会を開催しました。前回の振り返りを行った後、条例の構成要素や市民検討会の意見の集約方法について確認を行いました。また、NPO団体「よかもん会」代表の松永さんから「よかもん会」が行っている買い物弱者への支援や商店街の活性化と特定健診の受診率アップを目的に市の補助金（市民活動補助金）を活用して実施した事業の取り組みなどについて説明いただき、NPO団体の実際の活動について理解を深めました。後半のワークショップでは、「市民」と「行政」などの関係について認識を深めるために、7班に分かれて市民、職員の立場から現状の問題、課題について意見を出し合い、まちづくりの現状と洗い出しの作業を行いました。

### プログラム

1. 開会
2. プログラム説明
3. 前回の振り返り
4. 参加者紹介
5. 条例の構成要素
6. ワークショップ  
市民・行政について
7. 閉会

発行

大牟田市市民協働部市民協働総務課（TEL:0944-41-2690 FAX:0944-41-2552）

<http://www.city.omuta.lg.jp/shisei/shiminkatsudou/kihonzoyorei/machidukurijyourei-seitei.html>

## 市民と行政について認識を深める！

第2回目のワークショップでは、市民、職員の立場からお互いが考える市民と行政に対して持つイメージについて意見を出し合いました。まちづくりの主体である市民と行政に対しての課題や問題点を抽出することによって、その問題や課題を具体的に解決していく方法をこれから検証していきます。

1班	
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の人材育成が必要</li> <li>●行政に対して個人的な苦情を言う</li> <li>●色々な活動に参加する市民が不足している</li> <li>●自主的・主体的な行動が不足している</li> <li>●世代間または個々人に考えの温度差やレベルの違いがある</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>●行政の窓口が一本化されていない</li> <li>●市民に対し協力的でない</li> <li>●情報提供が不足または方法に問題がある</li> <li>●行政への問合せ先がわからない</li> <li>●市民に対する配慮が不足している</li> <li>●地域住民へ課題・問題の周知を図るのに時間・労力が必要</li> <li>●市民に行政が負担を押し付ける</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報の伝達・周知が不足している</li> </ul>

2班	
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民相互が話し合う場がない</li> <li>●市民参加が必要</li> <li>●市民活動の情報が不足している</li> <li>●市民の参加意識が低い</li> <li>●後継者がいない、育たない</li> <li>●活動資金が不足している</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>●行政からの情報が不足している</li> <li>●行政相談の窓口がわからない</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民及び行政の意見交換の場が不足している</li> <li>●市民と行政相互に負担の押し付けあいがある</li> <li>●市民と行政との間に距離感がある</li> <li>●市民と行政の役割が明確でない</li> <li>●まちの魅力が不足している</li> </ul>

3班	
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●行政に対し過度な要求がある</li> <li>●メンバーの交代によって情報共有が困難になる</li> <li>●補助があるから事業を行うといった意識を変える必要がある</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>●行政の運営方法に問題がある</li> <li>●情報発信に工夫が必要</li> <li>●協働のためのコーディネート総合窓口を設置する必要がある</li> <li>●協働イコールコミュニティという錯誤がある。コミュニティ再生だけで機能しない</li> <li>●市民活動団体の要件の緩和が必要（テーマ型コミュニティの特性が理解されていない）</li> <li>●テーマを決めて市民が話しあえる場の創出が必要</li> <li>●協働の実効性を担保することができる行政機構の改革が必要</li> <li>●審議会委員の再任制限の緩和する必要がある</li> <li>●施策体系を再構築する必要がある</li> <li>●市民に行政が負担を押し付ける</li> <li>●市民への啓発活動の工夫（情報発信不足）</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢者が多いことを活かす発想の転換</li> <li>●校区まちづくり協議会はその名称にある小学校で開催すべき</li> <li>●市民意識向上のためのアイデアづくりを行う</li> <li>●独居老人の多さを地域の活性化のチャンスとする意識を持つことが大切</li> <li>●学校も協働のパートナーとして位置づけを行う</li> </ul>

4班	
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくりに無関心</li> <li>●市民は利己主義</li> <li>●参加しやすい活動を行う</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報配発信が不足している</li> <li>●横断的でない縦割りの行政組織に問題がある</li> <li>●情報を全て公開（公表）できていない</li> <li>●行政は市民の現場の声を知らない</li> <li>●行政は業務として動いている</li> <li>●職員が業務全体を詳細に把握していない</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民と行政との意思疎通を円滑にして溝をなくす</li> <li>●市民と行政との情報交換の場を創出し情報の共有化を図る</li> <li>●市長、市議が市民の意見をくみ上げる</li> <li>●市民から市長、市議に対し要望を行う</li> <li>●国立のスポーツ施設を誘致する</li> </ul>

5班	
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の有力者が地域に対して無関心</li> <li>●若者の参加が不足している</li> <li>●補助金頼みの姿勢がある</li> <li>●若年層が少なく地域活動への参加も少ないため高齢者の負担が増加している</li> <li>●地域の連携が希薄化している</li> <li>●世代間の情報の共有が足りない</li> <li>●顔が見える身近な関係作りが必要（市民の横のつながりが必要）</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>●担当者がすぐ変わってしまう</li> <li>●業務に関する知識・情報の共有化が図られていない</li> <li>●継続性がない</li> <li>●地域からの情報収集が不足している</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世代を超えて共有できる情報ツールが必要</li> <li>●地域・行政の情報が若年層に伝わっていない</li> </ul>

